

書評合戦 ビブリアオバトル

杏和高校では、3年前より、ビブリアオバトル（知的書評合戦）に取り組んでいます。そして、今年も9月に行われた本校最大のイベント杏和祭（学校祭）において、図書企画として、実施しました。

今年は、以下の4名がバトルに参加！

どのみなさんも、レベルは高く、甲乙つけがたい戦いでした。そして、接戦を制した勇者は、2年生の小崎さんでした。



1年1組 布目萌さん
『君は月夜に光り輝く』
限られた時間を精一杯に生きる高校生の様子を同世代目線で熱く語ってくれました。



2年2組 小崎 舞さん
『君の臍臓を食べたい』
余命わずかな少女と少年の交流の中で発せされた、「一日の価値は誰でも同じ」というフレーズに感銘を強く受けた、と自身の体験と重ねて伝えてくれました。



2年5組 坂東 壮一郎さん
『君の臍臓を食べたい』
なんと、前者と同じ題材で勝負。しかし、切り口が全く違って、自身の知識・経験のひきだしの多さが光るともよいプレゼンでした。



1年4組 木村 心優さん
『読まずに死ねない哲学名著50冊』
難しいと敬遠されがちな哲学。でもこの本は、代表的な作品がコンパクトにまとめられた“お得本”と主張。観客も、へーなるほどと感心している様子でした。



小崎さんについては本校代表として、10月9日、名古屋市千種区の椋山女学園大学で開かれた、読売新聞社主催「全国高校ビブリアオバトル2017」東海大会に出場しました。大会には、愛知、三重、静岡の3県17校の代表が出場して、非常にレベルの高い戦いとなりました。惜しくも予選敗退ではありましたが、自信に満ちた堂々としたプレゼンテーションでした。応援していて誇らしかったです。



5分間のプレゼン時間を余すことなく、丁寧にプレゼンしている様子



プレゼン後のディスカッションタイム。どのような質問が飛び出すか分からない状況ですが、落ち着いて笑顔で、応答していました。

